

第3学年「理科」学習指導案

授業者 杉野 さち子

2月20日（金） 3階C室 10:00～10:40 （話し合い11:00～11:45）

1 単元名 じ石のけんきゅう

2 単元について

単元目標	・磁石の性質について、自分の調べたいことを他者と協力しながら研究する。 ・学級で研究成果を伝え合うことを通して、科学的な高まりをつくる。
------	---

子どもたちは、低学年教育で自然と豊かにかかわってきた経験から、理科の学習を楽しみに取り組んできた。一方で、みんなで同じ問題を解決することや、内容ありきの学習に物足りなさや難しさを感じる子もいる。また、自分の興味に基づき、興味の近い友達と協力して調べることに自信をもっているが、調べたことを記録することや、自分の興味と違うことを聴くことにももっと価値を感じてほしい。

そこで、子どもたちの得意な個の興味に基づく学びの中に、協働的に解決する過程を大切にすることで、より自分の学びが深まると感じられるようにしたい。そのために、「3年生部会」の提案に基づき、「関係に基づく評価」を取り入れる。また、「理科部会」の提案する「関係の中で問題や仮設が生まれる自然の事物現象との出会い」を試みる。

導入では、「磁石ってどんなもの？」と経験やイメージについて対話する。「くつつく」「紙を留める」「NS がある」など様々なことが語られるだろう。また、極の表示がない棒磁石と対話する。「強そう！」「NS がない？」などの気づきを共有することで、自分や友達の経験や気づきの差異点や共通点から、それぞれが「調べてみたい」と思った問題について研究を始める。おそらく、これまでの経験から、問題の近い数人で研究を行うであろう。友達や磁石、事象との関係の中で評価を通して学びを進めるようにする。理科部という共同体は、研究を進めるグループと共有する学級である。

研究にあたっては、教師の願いも伝える。科学的であることに客観性は欠かせないことから、共有の時間を大切にしてほしいこと、出来事を大切にするために記録をしてほしいこと、ふり返りを通して、自分の変化を大切にしてほしいことの3点である。受け入れるかどうかは子どもが決めることであるが、教師も関係の中の一員として伝えたい。子どもと教師の目標の達成に近づけるように、また、他者や磁石、その性質とのかかわりを通して自分の目標を更新していけるように、ともに学習を進めていく。

したがって、学習内容の順番は事前に決めることができない。個々の研究を共有することから、磁石の性質が明らかになったり、まだわからないことが明らかになったりし、次の目標が作り出される学習を「共同体において科学的な高まりをつくる学びの過程」と捉えている。

3 学習指導計画（6時間目／全10時間）

第1次 磁石と出会い、問題を見いだす	…2時間
第2次 磁石の性質を研究する	…本時4／6時間
第3次 もっと知りたい問題を研究する	…2時間

4 本時の学習について

（1）本時のねらい

- ・研究成果の共有を通して、自分の目標を明確にし、磁石の性質についての理解を深める。

（2）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1. 研究の成果を聴き合う。	・共有の場では、子ども同士の評価活動が進むように、板書に整理する。
2. 本時の目標を見だし、調べる。	・それぞれの目標が達成に向かうよう、見とりとかかわりを行う。
3. 次の時間の研究について見通しをもつ。	・記録やふり返りから、次の目標をともに考える。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

- ・関係に基づく評価により、どのような自分らしさを見いだしたか。
- ・共同体の中で、どのような科学的な高まりをつくったか。